

順位表 10/20現在
基本 33試合消化時点

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	大宮	77p	+39	61	22	A●
2	今治	61p	+19	52	33	A○
3	富山	55p	+15	43	28	H△
4	FC大阪	51p	+9	36	27	A△
5	沼津	50p	+10	49	39	H● A●
6	福島	49p	+11	53	42	H○ A●
7	北九州	48p	+1	33	32	H● A●
8	八戸	46p	+3	37	34	H● A●
9	相模原	46p	0	34	34	A△ H●
10	鳥取	46p	-10	42	52	A○ H●
11	松本	45p	+6	49	43	A○ H●
12	琉球	45p	-5	41	46	H△
13	金沢	43p	-2	45	47	A△ H○
14	岐阜	42p	+1	52	51	---
15	讃岐	38p	-4	40	44	H○ A●
16	宮崎	37p	-5	40	45	H● A○
17	長野	34p	-10	41	51	A● H○
18	奈良	31p	-14	37	51	A● H△
19	YS横浜	31p	-21	29	50	A○ H○
20	岩手	21p	-43	23	66	H○ A○

次回HomeGame

第35節 vs.FC大阪

11/2(土) 15:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

今日もここから
串かつで一杯

煮込み 珍道中
串かつ

14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)

※売り切れ次第、終了です
<定休日:日曜・祝日>

TEL. 058-252-1580

忠節橋
通り

JR 岐阜駅
北口より
北西方面へ
徒歩約 10分

★ アミカ

ドミー
イン

JR
岐阜駅

通算対戦成績	全 9 試合 (J3: 9 試合) 岐阜4勝 / 今治2勝 / 3分け Jリーグ岐阜ホーム戦: 1勝2分1敗			
直近の対戦結果	2024/03/20 今治 0-2 岐阜 得点者: 田口裕也x2 J3 - 5 節 @ 里山 S			
ここ 3 試合の 公式戦の 結果	岐阜	2024/10/20 J3 - 33 節 @ ウエスタ 岩手 0-6 岐阜 2024/10/11 J3 - 32 節 @ 長良川 岐阜 2-1 長野 2024/10/06 J3 - 31 節 @ とうスタ 福島 4-3 岐阜	今治	2024/10/19 J3 - 33 節 @ N A C K 大宮 1-1 今治 2024/10/12 J3 - 32 節 @ アシさと 今治 3-1 YS横浜 2024/10/06 J3 - 31 節 @ 富山 富山 0-0 今治

● J3 リーグ 2024 シーズン、大きな不調とわずかな復調の波が続いている FC 岐阜。10/11 (金) 第 32 節・ホーム長野戦は、序盤から長野にペースを握られる時間帯が続き、膠着した状態で前半を折り返す。後半は長野に先制されるが後半 18 分に #16 西谷亮のゴールで同点に追いつき、後半 A T に #6 北龍磨の決勝点で逆転し、2-1。劇的なゴールでホーム連勝を飾ることができた。続く 10/20 (日) 第 33 節・アウェイ岩手戦は、序盤から岐阜のゴールラッシュ。前半 3 分に #16 西谷、6 分に #11 藤岡浩介が決め、32 分には #11 藤岡の 2 点目。後半になっても岐阜の攻撃は止まらず、2 つの O G と後半 22 分に #22 文仁柱のゴール。結局、J 参入後のリーグ戦最多得点の 6-0 で 2 連勝を達成した。

この 2 試合で 2 連勝したものの、岐阜の順位は 14 位と変化はなし。だが、6 位 (= プレーオフ出場圏)・福島との勝点差は 10 から 7 に縮まった。また、20 位 (= J3 資格喪失が想定)・岩手との勝点差を 21、19 位 (= J F L 入れ替え戦が想定)・YS 横浜との勝点差を 11 と広げることができた。そして、今季の残り試合は 5。これで岐阜の“自動降格”は無くなったし、あと勝点 2 を積み上げれば、J3 残留 (最終順位 18 位以上) が確定する。過去の傾向では『残留ライン=試合数の勝点』と言われており、少し安心できる位置になったとも言えるだろう。一方の上位では、首位・大宮が前節で J3 優勝・1 年での J2 復帰を決め、続く 2 位・今治と 3 位・富山が少し抜け出しているが、それ以降のチームは今もなお大混戦になっており、岐阜にも順位を上げるチャンスが高まっている。ただし、今後の岐阜の対戦相手 5 チームは、今治、FC 大阪、富山、大宮そして琉球と、上位チームが続く。岐阜にとってかなり厳しい対戦相手だが、目の前の 1 試合に集中して最後までひたむきに走り続けて、少しでも多くの勝利、少しでも多くの勝点を積み重ねて、少しでも順位を上げる努力を今後も続けてゆこう。

さて、今節の対戦相手は、先述したように FC 今治だ。昨季は 4 位に終わり、今季は、かつて岐阜に在籍 (2012 ~ 2013 年) して現役引退した服部年宏氏を新監督に招へい。そして、現在の J3 では珍しい、多くの外国人選手を起用した攻撃的なサッカーで開幕から 4 連勝と上位に。GW には 4 連敗と調子を落としたが、その後は復調し、現在は 2 位 (= J2 自動昇格枠) で 3 位・富山との勝点差は 6。直近 5 試合での成績は 2 勝 2 分 1 敗・7 得点 5 失点と、一見調子を落としているように見えるが、これは上位の富山や大宮と対戦しているからであり、好調を維持していると見るべきだろう。そして、この順位を死守して J2 昇格を達成するために、今治は死力を尽くして戦うだろう。今節は厳しい試合になることが予想される。今治との対戦成績は、岐阜が 4 勝 2 分 3 敗・11 得点 15 失点と勝ち越している。昨季のホーム戦・7/15 (土) 第 18 節では、先制したが同点に追いつかれ、突き放したが再び追いつかれ、2-2 のドローに終わった。そして直近対戦の 3/20 (祝・水) 第 5 節・アウェイ戦は、今治の 5 連勝を阻止した岐阜が 2-0 で勝利。上位チーム相手の厳しい試合ではあるが、“ダブル”を達成したいところだ。

今治で最も警戒すべき選手は、15 ゴールで現在 J3 得点ランク 1 位の #10 マルクス・ヴィニシウスだろう。彼が得点した今季の試合はすべて今治が勝利しており、絶対に仕事をさせてはならない選手だ。また、6 月に途中加入した大型 F W の #17 ウェズレイ・タンキも 6 ゴール。この 2 人のブラジル人 F W を自由にさせないことが、岐阜の勝利には必要だ。一方の岐阜では、現在 J3 得点ランク 2 位の #11 藤岡浩介が、1 位に躍り出る活躍に期待したい。今シーズンも残り 5 試合。ようやくチームに明るい兆しが見える岐阜だが、各チームとも総力戦でしのぎを削る最終盤に入っている。僕ら FC 岐阜サポーターも、チームと一体になって総力戦で最後まで戦おう。厳しい対戦相手でも、岐阜の勝利を信じて最後まで、拍手と声援で選手たちの背中を押し、タオマフやフラッグで選手たちを鼓舞しよう。そして今節も、“HYPER CHANT” の凱歌を、このホーム・長良川に響かせよう。(ささたく)

投稿募集 !! gidaidohri@gmail.com

【第32節】岐阜 2-1 長野

●仕事が遅れ、キックオフに間に合わなくなるという有様。そんな中での試合観戦、苦しみ抜いた上での勝利!! 前半、そして後半途中までは長野のペース。あちらも決して良くないチーム状況、この試合に賭ける意気込みを感じた。そして先制を許してしまう。

ただ、早い時間帯に追い付けた事は良かった。ウチらしからぬ(失礼笑)鮮やかなパス交換からボールを繋いで、最後は西谷亮のゴラッソ。相手キーパーが全くノーチャンスの綺麗なゴールだった。

そして特筆すべきは後半途中投入された横山智也。彼のオフ・ザ・ボールでの動きがATの北龍磨の決勝ゴールを呼び込んだと言っても過言ではないだろう。サブメンバーにも選ばれない時期が続いてきたけれど、ヒーローインタビューで北が触れていたように、腐らずに日々の練習に取り組んできたことが実を結んだのだと思う。

とにかくこの勝ち点3は大きい。次節は岩手戦、切り替えてしっかりと準備をして欲しい。

浮田健誠、岐阜では不本意な使われ方をしてしまっていたが、やはり彼はCFの選手。新しいチームで自分が生きる形で使われているようで何より。(岐阜の誇り)

●岐阜としては初めての“金J”。累積警告で出場停止だった#23 萩野滉大が戻ってきたけれど、#2岡崎慎が福島戦での退場により2試合出場停止。その代わりに10試合振りの出場を果たした#29野澤陸のほか、入れ替わりを見せるメンバー。この試合でも、今までよりは(多少雑でも)速く縦にボールを出すプレーを選択する選手たち。ただ、あまり連携が慣れていないメンバーだったようで、かなり序盤は動きがぎこちなくて。前半1分足らずの自陣のゴール前での混戦で、入りかけたボールをGK#50後藤大輝が慌てて押さえた時には、この試合は一体どうなることかと僕は不安になりました(苦笑)。その後も、長野の方が主導権を握る時間帯が続いて、だけど何とか無失点に抑えることができて。ようやく岐阜が良い形で相手のゴール前に迫ることができたのは、前半終了直前の#11藤岡浩介のシュートあたりからだったように思う。後半になると、ようやく多少は動きが良くなってきた岐阜だったけれど、右サイドを完全に突破されて失点……(溜息)。左サイドでの攻防時に、そちら側に寄りすぎてしまい、反対側がガラ空きという見慣れた失点パターンは、本当に猛省していただきたいです。この苦しい場面をどう打開するのかと思っていたら、後半18分、細かいパス回しで相手のDFラインにわずかな空白を作り、そこで#16西谷亮が技ありのミドルを撃って同点! そんなオシャレなプレーができるんなら、最初からやって欲しいと思うんですが(苦笑)、まあ相手が長野で時間が経ってたから可能だったんだろうなあ……。んで、ここからの選手起用、#8荒木大吾と#27横山智也の投入がズバリ的中。2人ともドリブルで仕掛けてボールを前に運んでゴール前に迫るので、岐阜の攻撃が活性化。何度か惜しいシーンを作り出す。だけど、試合終盤に浴びたカウンター。再び右サイドでの不用意なプレーで相手に抜け出されてGKと1対1になり絶体絶命、それをGK#50後藤がビッグセーブで弾き、でも長野の選手が回収してシュート体勢に入って絶体絶命、それを外してくれて……。あのプレーはただじゃない。いや、マジで“やられた”と心臓止まりかけたですわ(苦笑)。まあ、あの場面で決められないから長野は今の順位にいるという考え方もできますけど……。そして、今度はこっちに絶好機が。後半AT、クロスに#27横山がヘッド、弾かれたボールを#6北龍磨が押し込んで逆転弾! 実に劇的な、今季2度目の逆転勝利、そして久しぶりのホーム2連勝でした。その後の、#6北の試合後のパフォーマンスがまた素晴らしかった。ああいう気持ちを昂ぶらせてくれる姿、何度でも見たいものです。それと初の“金J”は3連休の前だったから、3日間も良い気分です。休日が過ぎました(笑)。(ささたく)

●では、ご唱和をお願いします。「サンダが外した!」。もちろん、あの名作アニメの名セリフ「クララが立った!」の節で。いや、ナニが『節』だよ(笑)言うんならノリ、かな? すいません、ソレぐらいに感情がジェットコースターな試合でした。息が止まる、というか、心臓がギュッと、ね。わかるでしょ? でもさ、ソレっくらいにビックリしたんだよ。だって、三田だよ? アノ、三田尚希が外したんだよ? 他の誰が外しても、アイツは決める。そういう選手と思ってたからさ。あり得ない。試合後にパル・サポがしばらく残業してたみたいな話もあるようだけど、三田が決められなかったんだよ。彼らも諦めがつく……というか、諦めるしかないんじゃないの? 宇野沢からの流れを汲む、長野の『支柱』。その彼が外したんだもの。

しかし、まさに『九死に一生』な試合。徳儀に小指一本で残ったような。これこそ、『土壇場』だったよね。その上で、アディショナル・タイムでの決勝点。こんなコトもあるんだなあ。スタメンも頑張ったけど、ベンチに大吾がいるって時点で勝負が出来た。もちろん、『期待感』も持ってた。大きな声で言いたいけどですが(笑)。

智也もコレぐらい出来るんなら、なんで今まで? とか思っちゃうんだけどさ。あ、あと、特指にして入団内定の長井クン。ようこそ、岐阜へ! ありがとう!! あわや、ファースト・タッチでゴールしちゃう? みたいな雰囲気だったね。クロスが、もう少し手前だったら……。なんか、コーイチを思い出したよ。次節、スタメン、来ないかな?(ぐん)

●『金J』。平日ナイターにはお客さんも入った方では。試合開始の約1時間前にはアカデミーU-15のクラブユース準優勝報告も。松本戦でやるはずだったけど、台風で流れてたんだね。週末はユースの試合とかあるだろうし、ここしかなかったんだろうなあ。もっと大勢に祝ってもらえるとよかったのだが。

さて、ぼくは前週(第31節)の『信州ダービー』(長野vs松本)を現地で観ていたので、この日の岐阜vs長野は「長野の選手のアドレナリン・タンク(比喩)がカギ」だと思っていた。長野は、松本戦では90分通してアドレナリンが噴いて1-1のドローに持ち込んだけど、あれは『ダービー用ブーストタンク』によるもの。おそらく岐阜戦ではその装備はない。いつ(アドレナリン・タンクの)バルブが開いて、いつカラになるか。

結果、前半30分ぐらいからタンクのバルブが開いて長野の選手の動きが活性化、そのままの勢いで後半に先制された。しかし、北→コースケ→西谷とワンタッチで繋いでゴラッソを受けてバルブが閉じたかタンクがカラに。それでも、カウンターから一気に駆けつけてあとは三田が蹴り込むだけ状態を作られた時は「あ、終わった」と思ったさ。三田がアレを外すとは……。長野サポのガルパン・ファンには小山柚子が憑依したことだろう。「なおちゃん、それ外すう〜?」。無事に生き延びた岐阜は西谷が右に振る→ゲンちゃんがワンタッチでクロス→トモヤがヘッドで前へ→相手DFからのこぼれをリョーマがちゃんとコースを狙って押し込む。決勝点。

そうそう、この試合の特筆はなんたってトモヤ。動き回ってパスコースを作り続けて相手選手を消耗させ、味方の動きを活性化させる。まさに『ゲームを作る』仕事。野球で喻えるなら、劣勢の試合で4回途中から7回までのロングリリーフを引き受けて無失点、その後に勝ち越したんで勝ち投手もセーブもつかないけれど、いい仕事をした。そんな感じ。

J3残留案件を5灯式鉄道信号(青が1つ、黄色が3つ、赤が1つある)に喩えると、この試合までは注意信号(黄色1つ)だった。この試合を落とすと警戒信号(黄色2つ)になるところだったけれど、勝ったので減速信号(青と黄色1つ)になった。早く進行信号(青だけ点灯)になるといい。(吉田 Casting)

【第33節】岩手 0-6 岐阜

●スコアは6-0、1試合のチーム最多得点記録を更新といふ事づくめのように思えるが、正直見ていて拍子抜けした部分も多々あったのも事実。確かに開始早々の前からの積極的なプレスが功を奏して相手のミスを生じ先制点に繋がったという面もあったりはした。しかしながら試合が進むにつれて、これは岩手のサポーターは見てて辛いだろうなとしか思わなくなってしまった。なんというか組織としてのサッカーの体を成していなかったように感じた。

この試合の観衆は769名、今まで自分が見てきたJリーグの試合の中で最低の観客数。この内容ではお客さんもスタジアムから足が遠のいてしまうと言わざるを得ない現状である。まあ他所のチームのことを慮るような余裕はないわけだが、残り5試合ひとつでも多く勝ち点を積み重ねていける事を願って。(岐阜の誇り)

●最下位・岩手との“決着”をつける大一番は、2020年以來となる北上での開催試合。僕らサポーターも選手たちも気合が入っていた試合。だけど、試合が開始して間もなく、ほとんど決着がついてしまった。前半3分に#16西谷亮が相手DFのパスミスを取って先制点。前半6分には、#27横山智也が奪ったボールを敵陣深くに運んでクロス、これを逆サイドで#19松本歩夢が折り返して中央の#11藤岡浩介が押し込んで2点目。こんなにあっさり2点も奪えたのって、いつ以来なんだろう？そして、その後も岩手は何故か、丁寧にGKからボールを繋ごうとして失敗し、奪われてカウンターを浴び続ける。ちょっと前に、あまりに見慣れた光景だ(苦笑)。いや、当時のウチよりもパスの精度やデュエルの強度が悪くて、前半はほとんどハーフコートマッチだったんじゃないかな？後半も、クロスバーにボールを当てたシーンを除けば、岩手が岐阜のゴール前に迫る決定的なシーンはほとんどなく、逆にOGを2つも献上。J3残留が掛かっている大事な試合なはずなのに……と、岩手の星川監督の試合後コメントを要約すると「練習で良かったと思う選手を起用したが、試合で力を発揮できなかった」。これも、実に身につまされる話です。そして、もっと他人事とは思えなかったのが、岩手の選手たちは(個々のレベルでは)必死に戦っていたけれど、チームとしては非常に残念なレベルで……『ああ、降格するチームって、やっぱりこうなるんだな……』と、つい、2019年のシーズン終盤のウチのことを思い出してしまいました。もちろん、今の岐阜の立場では、岩手を同情している余裕など全く無いし、1点でも多く点を獲って得失点差を優位にしなくちゃいけない。なにより、真剣勝負の試合で相手に情けをかけるのは失礼なことですし、僕らの格言は『前半3-0は危険なスコア』です(苦笑)。結局、岩手のシュートを2本で抑え、Jでの岐阜のリーグ戦最多得点及び得失点差を更新して6-0で試合終了。これで岐阜のJ3残留がほぼ確定(少なくとも自動降格は回避)、そんな重要な試合を大量得点で勝利できたことは本当に嬉しかった。だけど僅かながら気持ちの余裕ができると、そんな感傷的な気持ちが生まれたりします(苦笑)。メインのスタジアムと違うとはいえ、観客が769人というのもねえ……。ただし、岩手でもスタグルに電子マネーを導入していたのにはびっくり。客側は便利だと思うし、店側も釣り銭の準備が減るだろうけれど、オペレーションが悪くなるのかな？(ささたく)

●なにげに初参戦のアウェイ・盛岡戦。立派なシャトルバスで乗り込んだ屋台村には「アルコールがない？」とかいうガセネタもあったけど、ちゃんと売ってて、そこで元日本代表DFだった、今季で退任が決まっている社長が焼いているハンバーガーのハンバーガーと豚汁を買ってランチ。「お疲れ様です。」と挨拶したら会釈を返してくれたけど、いや〜、なんか、顔に出てたね。大変なんだろうなあ……と。兎にも角にも、お疲れ様でした。

さて、この試合。ウチは勝てば自動降格はなくなり、入れ替え戦もほぼ回避可能な状況になる。その上で、大きな声では言わないが、「引導、渡したれ。」そう思ってやってきたウエスタだったんです。ただ、ウチよりも相手が「引導渡してください。」だった件。「いっそ、ひと思いに〇して。」的な状況にすら見えた。この試合の観戦者は764人。いろんな意味で『諦め』がついたんじゃないかな？

ゴーマンかますワケじゃないが、決してウチが良かったとは思わない(ただ、見事にハメたな……とは思ふ)。ソレが開始早々に決まった上にさらに3分後に追加点。あとはもう淡々と、粛々と。J参入以降、やられたコトは何度もあったけど、やったコトがなかった6-0&6点差勝ち。ウチの最多得点&点差を記録したんだし、選手も「してやったり！」だとは思ふ。思うけど……。

なんか、2019のさ、ウチを、ね。ふと、思い出しちゃったら、もうね。たまらなくなって。長良川での0-7、押谷にも決められた徳島戦。開始から押されればなしで何にも出来なかった最終節の味スタ(なんとか、終了間際に1点は返したものの、既に5点取られてたからね)を重ねちゃって、なんだか、見ているのが辛かったよ。それでも、声を枯らさなかった岩手のゴール裏が切なかったね。

気になったのは「岩手は今季、ああいうGKから繋いでいくスタイルだったっけ？」ということ。想定外の失点をして、もう一試合たりとも負けてはいけないう状況で、なんで、頑なに後ろから繋げようとしたんだろう？それがきちんと出来なくて、ウチの前プレに引っかかっての失点の山。来季もこの試合と同じメンバーでやるのが決まっているんならわかるんだけど。もう少し、やり方はあったんじゃないのかな？監督が変わった影響かな？「自分のことは棚に上げて」の不遜な物言いだとは思います。ごめんなさい。

しかし、あの展開、あの状況で【アイダ】を切るとはねえ。いや、我が国には『武士の情け』という慣用語があっただね(苦笑)。ちよいと「酷だった」ような気がしないでもなくてね。逆に「この程度で喜んでいられないんだよ！」ぐらいの気概があってもよかつたかな？と。

とはいえ、やるべきコト、取らなきゃいけなかつた勝ち点3をやり遂げたのは事実。この連勝の勢いを、次節からの4試合、昇格狙ってるヤツらにぶちかましてやりましょう！(ぐん)

●この週末は滋賀全社を観戦していたので、帰宅後にDAZNで確認。

「勝負に甘えは許されねえ、取るモノは取るっ！」ってのはマンガ『ギャンブルレーサー』の主人公、競輪選手・関優勝の至言。だから、相手をシュート2本に抑えての通称『無慈悲スコア』での勝利(得失点差もプラスに出来た)には万々歳しかない。とはいえ、岐阜のJ2時代(とくに最終年)を知る『中堅古株サポ(←ヘンな表現だ……)』筋は、「ああ、そうだよ、ウチもこんな風に、足腰立たなくなってロープにもたれてる中でひたすらボディータンブルにパンチ喰らい続けて、心だけじゃなくていろいろ折れてしまうような試合、やったよな……」と、塩辛さとともに思い出してしまうところではある。

とにかく、この勝利でJFLへの自動降格となる20位まで落ちることはなくなった。しかし、今後は最上位陣との対戦が目白押しだ。「締めてかかれ！」ってことだね。(吉田铸造)

J3 残留争いの動向と、10/20 時点の JFL 順位表。(残り 5 試合)

FC 岐阜と「自動残留ラインの勝ち点差 (どれだけあれば得失点差に関係なく残留できるか)」は『10』に広がった。また、残り 5 試合で最下位・岩手との勝ち点差が 21 となり、FC 岐阜の自動降格はなくなった。J3 下位の今後の対戦相手。

岐阜	讃岐	長野	宮崎	YS	奈良	岩手
H 今治	A 奈良	A 沼津	H 大阪	H 松本	H 讃岐	H 大宮
H 大阪	A 八戸	A YS	A 松本	H 長野	H 福島	A 金沢
A 富山	H 北九	H 八戸	A 沼津	A 大阪	A 相模	H 松本
H 大宮	H 今治	A 北九	H YS	A 宮崎	H 岩手	A 奈良
A 琉球	A 長野	H 讃岐	A 今治	H 北九	A 金沢	H 福島

やはり一番「難儀」な相手を残しているのは岐阜と考えて間違いはない。とにかく勝ち点 1 でも貪欲に拾うことが大切だ。もちろん、上位から勝ち点 3 を得ることで J2 昇格プレーオフも近づくのだけど、この章は J3 残留争いに関する事なので。次に JFL の状況。

1 栃木 C	53p	+21	
2 高知	48p	+13	
3 滋賀	41p	+19	
4 Honda	40p	+9	(2025 J3 ライセンスなし)
5 三重	39p	+3	
6 枚方	38p	0	(2025 J3 ライセンスなし)
7 沖縄	37p	+7	(2025 J3 ライセンスなし)

ついに栃木 C が首位に。そして高知は「失速」ではなく「停滞」状態になってしまった。岐阜から高知にレンタル移籍中の和田侑樹はいまだにベンチ入りすら果たせていない。そして、残り 5 試合で高知と 3 位：滋賀との勝ち点差はわずかに 7。ついに J3 との入替戦も怪しくなって来た。高知の残り対戦相手が浦安→Honda→ソニ仙→マルヤス→新宿。滋賀の残り対戦相手が青森→枚方→マルヤス→沖縄→三重。いまの高知の状況を鑑みると、ひょっとしたらもしかするよ。『岐大通』では、FC 岐阜の J3 残留が決まるまで、JFL 順位表などの情報を掲載していきます。(編集人：吉田铸造)

【セカンド】全国社会人大会に出場しました

日程の都合でまだ 1 試合残していますが、東海リーグ 2 部を 8 チーム中 4 位で終えることが確定している FC 岐阜 Second (以下『セカンド』) ですが、「地域リーグ以下のカップ戦」である『全国社会人』では東海予選で「FC ISE-SHIMA」「岳南 F モスペリオ」と東海 1 部勢に連勝 (特に伊勢志摩は東海 1 部を制して地域 CL に出場することになる) して全国大会への切符を手に入れました。

滋賀県で行われた本大会でも、1 回戦で (いまは関西 2 部にいるものの) 3 年前の地域 CL では決勝ラウンドで 3 位にまでなった「おこしやす京都」に PK 戦の末に勝ち上がり。セカンドが全国大会で勝利したのは 2013 年・長崎大会以来 11 年ぶり (この時は全国 3 位) です (※国体岐阜県チームは「セカンド」としての参加ではないので除きます)。

ぼくは 2 回戦を観に行ってきました。対戦相手は「FC 徳島」。ここんとこ四国リーグを制覇し続けている強豪で、地域 CL でも着実に成績を上げている、とてもよく出来たチーム。ゴールを守るのは FC 岐阜からレンタル移籍中の林祥太郎。試合後に岐阜セカサポのところまで挨拶に来てくれました。試合は、徳島が 3-0 で勝利。セカンドはやれることを全部やったと思う。それが、地域 CL 常連勢には通じないということ。岐阜 U-15 がクラブユース選手権で準優勝した時もそう思ったけど、「上には上がいる」ということを自分の『体験』として知ることとはとても大事。いまは J クラブのセカンドチームが地域リーグにいるのは珍しくなってしまったのですが、今後もセカンドの健闘を期待したいです。(吉田铸造)